

【 101 】

氏名	田 頭 良 章
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1338 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	Specific Suppression of the Local GvH Reaction by F ₁ Spleen Cells F ₁ 脾細胞による局所性GvH反応の特異的抑制
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 小川勝士 教授 栗井通泰

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

(C57BL/6×BALB/c)F₁雑種および(C₃H/He×BALB/c)F₁雑種マウス後肢足蹠皮下に親系マウスの脾細胞を注入することによって局所性GvH反応を惹起し、そのF₁マウス脾細胞中に出現するGvH反応抑制性細胞の性質を局所性GvH反応を用いて調べた。BALB/cマウス脾細胞でGvH反応を惹起したCBF₁マウスの脾細胞は、7日目以後に著しいGvH反応抑制効果を発揮し、その細胞分画では、プラスチックシャーレ非付着細胞に抑制効果が認められたが付着細胞には認められず、また、抗1.2抗体と補体処理によりその活性を消失した。これらの事実によりGvH反応抑制効果はTリンパ球によるものと考えられた。この抑制効果は特異的で、GvH反応の惹起に用いた親系マウス脾細胞によるGvH反応のみを抑制し、他方の親系マウス脾細胞によるGvH反応は抑制しなかった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は移植免疫領域における実験的研究であるが、局所性 graft-versus-host reaction を惹起されたF₁マウス脾細胞はこの反応を惹起した一方の親系マウス脾細胞による graft-versus-host reaction を特異的に抑制しその抑制効果はTリンパ球によるものであることを見出したものであり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。